

# Campus Today



# 第1000回 歯学部教授会を開催



節目の開催を喜ぶ矢ヶ崎理事長（2列目中央）と本学教授会のメンバー

# 第4学年 共用試験臨床実習前 OSCE を実施

## 臨床実習前の 技能・態度・知識を評価

1月24日(土)歯学部第4学年学生45人を対象に、2025年度歯学生共用試験臨床実習前OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) が公益社団法人・医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO) 派遣監



本番前に行われた受験者への説明会

ional Osteoporosis Foundation : IOF) が主催する 第9回トバト太平洋骨健康国際会議 (IOF Regional 9th Asia-Pacific Bone Health Conference) が昨年12月11日 (木) から13日 (土) まで、東京都港区の浜松町コヘグランホールで開催された。IOF理事長で

歯科放射線学講座・田口 明教授が歯科医師として初めて講演

国際骨粗鬆症財団 (International Osteoporosis Foundation: IOF) が主催する第9回アジア太平洋骨健康国際会議 (IOF Regional 9th Asia-Pacific Bone Health Conference) が昨年12月11日 (木) から13日 (土) まで、東京都港区浜松町コンベンションホールで開催された。IOF理事長であるニコラス・ハーベイ教授 (英: University of Michigan) と、IOF日本代表理事の鈴木敦詞教授 (藤田医科大学) が大会長となり、ハイブリッド方式で行われた国際会議で、本学歯科放射線学講座の田口明教授も歯科医師として初めて講師を務めて講演し、全世界から集まった医療者や研究者の注目を集めた。

世界各国の学会、専門家、患者団体、政策決定者を結びつける国際的なハブとしての役割を果たしている。国際会議は、これまでアジアのさまざまな国で開催されてきたが、日本では初めての開催となつた。

この中で田口教授は12月13日（土）のセミナーを担当し、「A

は、今後はさらに、医科歯科連携を強化していく方針を固めている。田口教授は、国際会議全体を振り返り、「歯科が、骨粗鬆症領域において『周辺的存在』から『戦略的パートナー』へとその役割を拡大していく」とが、今後はさらに期待されると感じた」と話している。

1月14日(水)は、本学創立者矢ヶ崎 康博士の生誕106年を祝うファウンダーズデイであった。その翌日、1月15日(木)、記念すべき歯学部第1000回教授会が創立30年記念棟「奥穂高・前穂高」の間に開催され、新年を迎えたこの席で、矢ヶ崎 雅理事長(1期生)は、創立時の血がにじむような苦労について言及し、本学の更なる発展についての抱負を語った。この席で、教授会メンバーには、松本歯科大学の「徽章」が矢ヶ崎理事長からあらためて贈呈された。

左記に矢ヶ崎理事長の講話を要約し紹介します。

創立者・矢ヶ崎 康博士が、かつて させて、すばらしい社会人として卒立 こんな話をされたことがあります。(学 校)たせるような教育ができたとしたら、 校というものは入学生ではなく、卒業 それこそが本当の『良い学校』じやな 生の質で評価すべきものだ。本来はだ いのかね。

康に関して国際的な啓発、研究教育、支援を行う世界最大級の国際的な非営利組織で、1988年に設立された。本部をスイス

は、骨粗鬆症を「医科のみの疾患ではなく、歯科も関与すべき全身疾患」と捉え、医科歯科連携を推進する立場で今回の講演

可され、創立からすでに50年余を経過しました。この2月には第49期生が卒業する予定です。累計で約4千7百人の歯科医師、1400人を超える歯科衛生士、700人の歯科技工士を社会に送り出しています。それが全国各地で活躍し、地域の歯科医師会役員や地方議会の議員などの要職に就いて地域社会のリーダーとして信頼されている人が少なくありません。

本学の教育の基本に据えられ

ている「歯科医療人である前に良き社会人であれ」という教えは、これからもわが国の地域社会を支える柱のひとつであり続けるでしょう。

ひとりひとりが、将来の松本歯科大学を支える「若手教員」の育成のため、「教育・研究・診療」に対して全力投球していただきたい。皆さんの力を結集させて、松本歯科大学の明るい未来を構築していくましょう。

(学長 宇田川信之)



歯科医師として初めて講師を務めた田口歯

in Dentistry. Promoting

1月24日(土)歯学部第4学年学生45人を対象に、2025年度歯学生共用試験臨床実習前OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) が公益社団法人・医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO) 派遣監査の実習前共用試験は、OSCEとCBTがあり、歯科医師前臨床実習において医療行為を行うための目的で実施されており、医学系の公的化から1年遅れ

技  
督者1人、外語傳者1人を選んで実施された。

# 第4学年

## 共用試験臨床実習前 OSCE を実施

# 臨床実習前の 能・態度・知識を評価

新しい課題が採用・出題され、試験の課題も公的化に向け、全国共通の細かな試験室準備がイドに従つて準備を行い、多忙な労力が費やされた。担当の教職員が、前日金曜日の午後から病院を休診にして、本館と病院診療室を会場として設営し、ま

て、歯学系も昨年度から完全に公的化された。

歯学系OSCEは、模擬患者とマネキン模型を用いた模擬治療形式で行われ、主に技能、態度を評価される試験である。受験者は、6つの課題を5分間ごとに場所を変えて行っていく。

今回のOSCEは、昨年同様に認定評価者試験に合格した歯科医師や、認定標準模擬患者認定試験に合格した歯科衛生士を含め総勢213人が参画した。

2025年度共用試験OSCEの実施において、統括部署である学事室担当者としてスタッフとしてご協力ご参加戴いたすべての職員の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

試験実施前点検を行つた。試験当日は早朝から準備を行い、無事に試験を実施することができた。試験終了後、翌週の診療に支障の無いよう、反省会や片付けを行つた。

受験する学生は、緊張しながらも、懸命にそれぞれの課題に取り組んでいた。試験終了後の合同反省会の際に、機構派遣監督者の小宮山道先生と野間昇先生より、順調に問題なく試験が実施されていたとの、総





## 中学生との交流からキャリア形成につじて考える

### 塩尻市立丘中学校「いきはたトーク」

塩尻市立丘中学校で昨年11月20日(木)、「いきはたトーク」が行われ、本学病院の大池 蘭親や教師などの「縦の関係」、

病棟看護師と参加した。

同級生との「横の関係」以外に、

地域社会の大人たちという「斜めの関係」と交流することで、

中学生が進路選択を考えるきっかけとなるだけでなく、社会人側にもキャリア形成について考

かげとなるだけではなく、社会人側にもキャリア形成について考

思いを打ち明ける生徒に寄り添う筆者(右)

3人の中学生が社会人、大学

生、高校生といった「先輩」の

一人と組になり、「先輩」が事

前講習で作成したこれまでの人生を感情の起伏でグラフにした

「人生グラフ」を見せた後に1

対1で18分間、中学生の作った

人生グラフをもとに、現在や将

来の悩みといった相談などを聞

き、対話した。

3人は、初対面にもかかわらず

悩みを話してくれ、こちらの

人生の悩みといった相談などを聞

き、対話した。

3